

創刊号目次

(昭和二十六年三月発行)

皇后・中宮問題の解決……………	芝 葛 盛	(1)
昭和二十三年度正倉院楽器調査概報……………	芝 屋 祐 泰	(10)
図書寮本類聚名義抄出典索引……………	橋 本 不 美 男	(27)
書陵部官制の変遷……………		(51)
蔵書史と新収書解説……………		(55)
貴重図書の翻刻と出版……………		(60)
疎開から展示会へ……………		(62)
編修課事業概要……………		(69)
正倉院年報……………		(73)

編 修 後 記

昨春、過去長年月の総括的事業報告を兼ねて書陵部紀要を創刊したが、今こゝにその第二号を発行することとなり、漸く軌道にのりはじめた感がある。

本号には主として史学関係の論考をあつめた。即ち長年陵墓の考証調査に従事してゐる中村一郎氏の「国忌の廃置」は、国忌に関する制度について、その変遷改廃を、時代をわかつて論述したもの。野村忠夫氏の「律令制官人社会の一考察」は、令官位制に於ける「外位」について、その氏族の尊卑にもとづく本質を追求し、その展開が官人構成の階層化に果たした役割を論じたものである。

リポートは前号にひきつゞき、昭和二十五・六年度における正倉院楽器調査、絃楽器についての報告を収載し、最後に附録として「正倉院銘文集成(一)」を附載した。正倉院松島順正氏の努力によつて、はじめてこのやうに集大成されたもので、正倉院年報における調庸関係の新資料とあはせて、学界、特に古代史研究者の要望に応へ得ることと思ふ。なほ同銘文集は、頁数の都合から次号とに分括したが、将来単独頒布を予定してゐる。

以上全般を通じ、未だ不十分の譏りは免れ得ないが、大方の叱正と部内諸子の努力により、号を追ふて充実することを期待したいものである。

BULLETIN

STUDY ON THE JAPANESE CULTURE IN RELATION TO THE IMPERIAL FAMILY AND COURT.

No. 2. March, 1952.

CONTENTS

Changes in the Observance of the Anniversaries of the Emperors, Empresses, and Empress-Dowagers' Demises by Ichiro Nakamura	(1)
A Study of the Organization of the Officialdom under the Law of the Taihō Era promulgated in 701—Chiefly on the Character and Functions of the “Ge-i” (Outer Court Ranks) by Tadao Nomura	(15)
Report on the Investigation of the Musical Instruments in the Shōsōin, 1950- 1951, by Sukehiro Shiba, Kenzo Nagaya, Ryoichi Taki, and Shigeo Kishibe	(28)
Annual Reports:	
Brief Account of the Library Work	(54)
Brief Account of the Work in the Compiling Section, A. & M.D.	(58)
Annual Report of the Shōsōin	(59)
Appendix:	
Collection of Inscriptions on Ancient Textile Fabrics preserved in the Shō- sōin (1) by Yorimasa Matsushima	(1)

Archives and Mausoleum Division,
Imperial Household Agency